



桃里の風

射水市立中太閤山小学校
学校だより第4号
令和6年7月16日発行
校長 堀 かおり
Email:nakataikoyama@imizu.ed.jp

気持ちのよい挨拶があふれる学校に



「おはようございます！」

毎朝、玄関では中太っ子の元気な挨拶が響きます。先日、点数板を用いて「目を見て挨拶できる人」の数や「自分から挨拶できる人」の数を数えてみました。声の大小に個人差はあるものの、ほとんどの中太っ子は、『目をつないで』『自分から進んで』挨拶をしてくれています。体育館中に響く「歌声」はもちろん中太小の自慢ですが、玄関で響く「挨拶」の声も、かなりの自慢だと思っています。

私事ですが、我が末娘が小学生の頃に「挨拶はなぜしなくちゃいけないのか」と家族に尋ねたことがありました。恥ずかしがり屋で大きな声を出すのが苦手な娘に、事あるごとに口うるさく「挨拶は？」「聞こえなきゃ意味がない」などと強要していたので、そう聞かれたのでしょうか。挨拶を苦痛とする娘の心情を慮りながらも、そのとき自分が応えたのは、「近所の人や友達、回り中の人に好かれる子に育てほしいから」というものでした。

挨拶は、社会の共通ルールである「常識」として認識されています。もし社会人になって、回りに挨拶ができなかったらどうなるでしょう。とたんに「礼儀を知らない」「失礼な人」「愛想が悪い」「何を考えているのか分からない」などと思われてしまうでしょう。だからこそ、私は親として何としてでも挨拶のできる子供に育てなければ・・・という思いを強くしていました。(ちなみに、未だに蚊の鳴くような声でしか挨拶ができてないと思いますが、本人曰く「やっとなる！」らしいです。)

「社会に愛される人間に育てほしい」という思いは、中太小の子供たちに対しても同様に抱いています。挨拶は、コミュニケーションのきっかけや友達づくりのきっかけになり、人間関係を良くしてくれます。また、挨拶が活発に飛び交う地域は、犯罪が少なく住みやすいという話も以前に聞いたこともあります。

7月8日(月)に生活委員会が「あいさつ集会」を開いてくれました。挨拶をするときに大切な3つのキーワードを、寸劇を交えながら「おこめ」の合い言葉で分かりやすく伝えてくれました。

① 大きな声で

② 心を込めて

③ 目をつないで



【挨拶の大切さを寸劇で表現してくれた生活委員会の子供たち】

どれも大切なことですね。これからも子供たちが、友達や先生、地域の方々に対して気持ちのよい挨拶ができるよう、教職員みんなで働きかけていきたいと思っています。そして、この「おこめ」の挨拶が、中太っ子の自慢の一つ、伝統の一つとなっていくことを心から願っています。

よりよい中太小を創る委員会活動

ホームページ
QRコード→



全部で9つの委員会に分かれ、児童の主体性を生かした活動をしています。

中太っ子生活委員会

- ・よりよい学校生活となるように、あいさつ運動やあいさつ集会をしたり、様々な呼びかけをしたりしています。



放送委員会

- ・お昼の校内放送では、クイズや心理テスト等、内容を考えて放送しています。当番を決め、交代で放送を流しています。



図書委員会

- ・図書の貸し出しや、本の整理をするだけでなく、読書の楽しさを分かってもらうための様々な活動を工夫しています。



体育委員会

- ・体育行事の企画や運営のほか、パワーアップタイムの運営のように、運動に親しんでもらえるような活動を行っています。



保健委員会

- ・常時活動としてシャボネットの補充を行っているほか、学校保健委員会で、健康に関する内容を発表するなどしています。



給食委員会

- ・輪番制で日々の給食献立放送を行っています。学校給食週間的时候には、様々な企画を考え実行しています。



飼育・栽培委員会

- ・プランターや花壇の管理、水槽の生きものの世話をしています。花に親しむためのクイズを作って放送したりもします。



美化委員会

- ・学校内を美しくするための活動を工夫して行っています。掃除で使う洗剤の補充もします。



ボランティア委員会

- ・各種募金活動やベルマーク収集を行ったり、ありがとうプロジェクトを運営したりしています。



7月25日(木)から8月27日(火)まで、34日間の夏休みとなります。家族とともに、夏休みにしかできない体験や学習を豊かに広げ、ぜひ充実した時間を過ごしてほしいです。